



# ぐるり庄原 Look Around Shobara カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

## REPORT ④

### 自治振興区がスポーツで交流 総領ソフトバレーボール大会

総領自治振興区対抗ソフトバレーボール大会が3月29日、里山総領体育館で開催されました。

自治振興区から8チームが参加し、1チーム6人で競技が行われました。ソフトバレーボールは柔らかく大きなボールを使用するため、大人に混じり小学生も多く参加。家族や友人の声援を受けながら、珍プレーや好プレーを連発し、笑顔の絶えない楽しいひとときを過ごしました。

参加者は「世代間交流や自治振興区間の交流を図り、地域づくりにつなげていきたい」と話していました。

結果は次のとおりです。

優勝：五領自治振興区Aチーム、準優勝：下領家自治振興区、3位：五領自治振興区Bチーム。



ハッスルプレーに大きな喚声

## 活動の成果いきいきと カメラ教室作品展

## REPORT ⑤



一点一点ゆっくりと見学

庄原自治振興センターの「カメラ教室作品展」が4月8日～13日、田園文化センターで開催されました。

これは、日ごろの活動の成果を発表しようと毎年行われ、今回は11人の受講生と2人の講師が2点ずつ出展。里山の風景や神楽、イルミネーションなど26作品が会場に展示されました。

来場者は1点ずつ時間をかけて見学し、「コントラストや構図が素晴らしい」と感心していました。

このカメラ教室は、毎月第4金曜日の19時から庄原自治振興センターで行われ、受講生が撮影した写真を持ち寄り、講師からアドバイスを受けています。カメラ教室のお問い合わせは庄原自治振興センター(電話0824-72-3777)へ。

## 民家火災で初期消火 備北消防が高門町の3人へ感謝状

## REPORT ⑥

備北地区消防組合消防本部が4月15日、初期消火に努めた3人へ感謝状を贈呈しました。

贈呈されたのは、高門町の田辺豊さんと妻の栄子さん、香本トラエさん。3月11日、田辺豊さんは散歩中に近所の建物火災を発見すると、妻の栄子さんと隣の香本さんへ連絡し119番通報を依頼。自宅の消火器を持って、火災現場に噴射しました。栄子さんと香本さんもバケツを持って火災現場に向い、池からバケツリレーを行い、被害を最小限に食い止めました。

庄原消防署で行われた贈呈式で、関徳龍昭消防長は「火災発見から通報・初期消火は迅速適切であり、その行動は他の模範。今後も地域の防災活動に協力してください」とあいさつ。田辺豊さんは「一人では何もできなかったが、隣近所が連携し、被害が少なく本当に良かった」と喜んでいました。



関徳消防長から感謝状を受け取る、左から香本さんと田辺さん夫妻。

## REPORT ①

### ひな飾りで街がにぎわう 東城まちなみ春まつり



アンコールでは観客も一緒に歌う楽しい公演に

「東城まちなみ春まつり」が3月28日～4月5日、東城市街地で開催され、各家に伝わるひな人形と生け花が東城の町家を飾り、藍染めのれんや紅白の餅花がまちなみに彩りを添えました。

初日の3月28日には、東城町出身のバリトン歌手・久岡昇さんと廿日市市在住のソプラノ歌手・柴久美子さんの「さくらコンサート～クラシックで奏でる春の歌～」が徳寺本堂で行われました。コミカルな曲では笑顔が広がり、懐かしい曲では涙ぐむ人もあり、心に染みる歌声に多くの方が魅了されました。

期間中は、老舗旅館三楽荘でのひな御膳をはじめ、地域住民によるうどんや甘酒、抹茶などのおもてなしもあり、観光客との交流が祭りを盛り上げました。



▲東城のまちなみ  
約600家にひな飾りが並ぶ

## 結成10周年を祝いコンサート コーラスグループ「あんだんて」

## REPORT ②

口和町コーラスグループ「あんだんて」が3月20日、ヒューマンライツで、「満10歳記念コンサート」を開きました。

「あんだんて」は平成10年1月に結成し、吉津宏子さん(中本町)から指導を受けながら、「くちわ文化祭」や「けんみん文化祭備北フェスティバル」をはじめ、さまざまなイベントに出演。現在、14人のメンバーで活動を行っています。

コンサートでは、「島唄」「いい日旅立ち」「卒業写真」の歌謡曲のほか、「夕焼け小焼け」「春が来た」の懐かしい童謡などを披露し、最後は観客と一緒に「口和音頭」を合唱しました。

会場には、同じく10周年を迎えた手作り工房「アーミッシュ」からケーキやお茶が振る舞われました。

代表の浅尾伸枝さんは「今後も"あんだんて"の名前の由来どおり、歩くような速さで女声合唱の楽しさを追いつけていきたい」と話していました。



美しいハーモニーが響き渡る

## REPORT ③

### みんなで楽しくメタボ予防 高野で「健康体操」がスタート

「運動不足解消とメタボ撃退！」をテーマに、健康づくりの輪を広げようと、上高公民館で「健康体操」がスタートしました。

初日の4月14日には21人が参加。健康運動指導士の吉田香里さんの指導で、音楽に合わせて体を動かしたり、ストレッチで体を伸ばしたりしました。

この健康体操は高野支所が主催し4年目を迎えますが、参加者が順番に会場準備を行うなど、住民主体の運営で健康づくりが盛り上がっています。毎月第2・第4火曜日の20時から行われ、事前申し込みは不要で、いつからでも自由に参加できます。



「初心者でも気軽にできる体操」と参加者に評判

REPORT ⑩

里山の魅力を写真でPR  
中国山地豊かな自然写真展

第20回中国山地豊かな自然写真コンテストの写真展が4月1日～26日、比和文化会館展示室で開催されました。

281点の応募の中から入賞に輝いた33点を展示。牛供養田植えや里山の風景など、中国山地のさまざまな魅力を表現した作品が並びました。

来場者は「写真を通じて自然の美しさやこの地域の良さを再発見した。失われようとしている自然や伝統文化を大切にしていきたい」と話していました。



自然の美しさを楽しむ



輪を広げ地域の宝をPR  
ためしげ福寿草まつり

REPORT ⑪

3月28・29日の両日、福寿草を地域の宝として、地域づくりに取り組んでいる東城町久代地区で「ためしげ福寿草まつり」が開催されました。

3回目となる今年は、為重・久代東・久代中自治振興区の共催として、自治振興区域を越えて取り組み、イベントの規模を一段と大きくして開催。花の特徴や管理方法を説明したり、山菜うどんや手打ちそば、おこわなど地元産品のバザーを行ったりしました。

今年も約1.5\*にわたる福寿草の自生地に黄色い花が咲き、大阪、福岡などから訪れた多くの観光客が、黄色いかわいらしい花を写真に収めていました。訪れた人は「これほど大きな株で群生しているのは珍しい。地元の方の思いが伝わってくる。これからは絶やすことがないように守ってほしい」と話していました。



やわらかな日差しを浴びて咲き誇る福寿草

REPORT ⑫

産学官連携で食品加工を学ぶ  
庄原市県大研究開発助成事業



大豆を石臼ですりつぶして豆腐を作る

しょうばら産学官連携推進機構は3月17日、県立広島大学庄原キャンパスで、庄原市農産物を活用した特産化加工食品の実習会を行いました。

地域食材の活用方法を学ぼうと地域住民や学生など36人が参加。比和町越原地区に伝わる「熊笹焼き豆腐」や、ポリフェノール入りのパンなどを作りました。ポリフェノール入りのパンは、有色米糖の量を2%と5%に分けて作り、見た目や味がどのように異なるのか、試食会で確認しました。

食品加工技術アドバイザーの藤中義治さんの講演も行われ、参加者は「研究成果を生かして商品化につなげていきたい」「熊笹焼き豆腐のような伝統料理を掘り起こしていくことが重要」などと感想を話していました。



熊笹焼き豆腐

REPORT ⑦

西城ふれあいセンターに手作り看板  
子どもたちが作製しPR

3月31日、西城ふれあいセンターに、子どもたちの手作り看板が取り付けられました。

この看板は、庄原市社会福祉協議会西城地域センターが開催している「こどもサロン」に集まる子どもたちが、「西城ふれあいセンターが外から見えてははっきり分かるように」と企画。

昨年12月から、縦約90\*、横約180\*のアクリル版4枚に、塗料を使い「西城ふれあいセンター」の文字や、イラストを書いて作製しました。

国道183号線に面したフェンスに取り付けられると、子どもたちは「行き交う車からもよく見えるようになった。この看板を見て、気軽に立ち寄ってほしい」と話していました。



▲西城町栗にある「ふれあいセンター」

手分けをして文字を塗る子どもたち

公民館活動から新しい文化を発信  
口和にフラダンスサークル誕生

REPORT ⑧

口和公民館の「フラダンス講座」に参加する15人が、フラダンスサークル「くちわエンジェルス」を結成しま

した。口和モーモー祭などで演技を披露していくうちにメンバーの熱意が盛り上がり、サークルへと発展。3



練習に励むエンジェルス

月1日に三次市で開催された「けんみん文化祭 備北地域フェスティバル」では、最高得点で優秀賞を獲得し、10月18日に開催される「けんみん文化祭ひろしま'09」へ出場することが決定しました。代表の城田アンジーさんは「メンバーは20代から70代と幅広いが息はぴったり。10月の本番でも楽しく踊れるようがんばりたい」と話していました。

口和公民館では、毎年さまざまな講座を開催し、その多くが文化サークルへと発展しています。

REPORT ⑨

庄原バスセンターにAEDを設置  
(社)庄原法人会青年部が寄贈

(社)庄原法人会青年部が3月17日、社会貢献活動の一環として、庄原バスセンターにAED(自動体外式除細動器)を寄贈しました。

贈呈式では、細川裕司部長が「庄原バスセンターの協力を得て設置することができた。使うことがあってはいけませんが、万が一に備えることで、市民の皆さんに安心感を持っていただきたい」とあいさつしました。

贈呈式の後、庄原消防署によるAEDを使った救命救急講習会が開かれ、備北交通(株)の職員や法人会のメンバーが参加しました。

これまでも、法人会青年部は子ども110番防犯ステッカーを配布する活動などを行っています。



備北交通(株)の脇本和男社長へAEDを手渡す細川部長(左)